

(様式1)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成 23年 10月 30 日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3470104849		
法人名	株式会社 ニックス		
事業所名	グループホーム かぐや姫		
所在地	〒732-0046 広島市東区尾長東2丁目6番6号 (電話) 082-568-6166		
自己評価作成日	平成23年10月8日	評価結果市町受理日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.hksiks.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=3470104849&SCD=320
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社団法人広島県シルバーサービス振興会
所在地	広島市南区皆実町一丁目6-29
訪問調査日	平成23年10月26日

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点（事業所記入）】

運営理念『相手本位の心』を基本として、思いやりのある心暖かいサービスを実現する。職員が笑顔で楽しく生き生きと働く職場づくりを心がけています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

当事業所は、広島市東部の閑静な住宅街に開設され、「一日一回は大笑いし、利用者・職員共々に、笑顔で楽しく日々を過ごせるように！」を合言葉に、家庭的な雰囲気の中、個性を大切にしつつ、運営理念の実現に努力されている。地域との交流も幼稚園児・中学生との交流、障害者施設の職員による慰問、及び町内会の協力を得て開催される「夏祭り」等々各種イベントも積極的に行われている。又、運営推進会議に法人の代表者自ら出席され、参加者の意見を傾聴し、介護サービスの質の向上に取り組まれている。管理者・職員の方々も明るく、元気に毎日の業務に邁進されている姿が伺える。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	施設理念「相手本位の心」をスタッフルームや階段室等に掲示しお客様にも認識していただき、職員も常に理念を念頭においたケアが行えるように取り組んでいる。	管理者及び職員は、施設理念「相手本位の心」を念頭に日々の業務に携わり、利用者の要望又、家族の希望に沿った介護サービスの確立に努力されている。此の度、管理者が新たに就任されたのを機に、現状を十分把握・観察したうえで、理念に基づいたより具体的なサブタイトルを検討し、全職員の意思の結集を目指されている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	ご利用者様と共にお散歩に行く際に、近隣の商店へ買い物に行くことや、地域交流として近隣の保育所や地域の作業所等と、町内会等の協力を得て”ニックス祭り”を実施している。	自治会に加入し、毎回管理者が打ち合わせに参加し、地域に溶け込む努力がなされている。又、近隣の幼稚園・中学校との交流や障害者施設の職員による毎月1回の書道やオカリナ演奏・ハンドベル演奏等慰問を受けたり、町内会の協力を得ながら、催しを開催し、盛んな地域交流に取り組まれている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	町内会の寄り合いに、管理者クラスの職員が参加し、地域の方との交流を大切にしている。その際にはイベント等のご協力の依頼を行い、事業所が孤立する事無いよう努めている。ニックス祭りには町内会長をはじめ地域の方が屋台に買い物に來られます。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	概ね2ヶ月に1度運営推進会議を行い、事業所の近況や予定を報告し、要望や意見を頂いて、サービスに反映させるように努めている。	運営推進会議は二ヶ月に一回家族会も兼ねて、定期的開催され、メンバーは民生委員・行政担当者・利用者の家族、法人の代表・管理者の参加の下、開催されそこでの意見をサービス向上に活かすように取り組んでいる。	
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	生活課の担当者の方などと随時連携を取り、サービスの向上を目指している。広島市開催の研修等は積極的に職員が参加し、情報収集を行い日々の業務に活かしている。	前任の管理者が法人の担当窓口的な役割を務められているが、新管理者は施設の責任者の立場から、研修を通じ関係のあった行政担当者と、種々の機会を通じ、指導を受けたり、協力関係づくりに努力されている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	<p>新人職員が多い為、具体的な行為については正しく理解していないと思われるが、毎月1回行っているケアカンファレンスにて介護方法が統一化されるようにしている。玄関の施錠はしていないが、階段上部に転落防止の為、門扉を設置している。</p>	<p>高齢者の権利擁護・身体拘束に関する勉強を事業所内で実施し、身体拘束マニュアルを全職員が周知徹底するよう努め、利用者一人ひとりの気分や状況をきめ細かに把握することにより、鍵をかけずに自由な暮らしを支えるよう改善努力されている。</p>	
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。</p>	<p>外部研修や職員研修を行い、虐待について学ぶ機会を設けている。事業所内で虐待や、それと思われるようなケースがないよう、職員同士で、日々の観察に注意を払い防止に努めている。</p>		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。</p>	<p>該当の研修に参加し、その研修報告を兼ね全職員にも研修を行っている。必要な場合には、司法書士への支援の依頼が可能である。</p>		
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>入居前の見学や事前訪問を必ず行い、入居が決定した際には、契約書・重要事項説明書をもとに、分かりやすく説明を行っている。不安な点、疑問点があれば漏れなくお答えし、ご理解いただけるよう説明を行っている。</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>ご意見ポストの設置を行っている。家族会、イベント時にはアットホームな雰囲気で開催できるよう工夫し遠慮なく色々なご意見をいただけるよう配慮している。</p>	<p>ご意見ポストを設置し、利用者・家族等の意見は随時受け付け、聴取するよう取り組まれている。特に運営推進会議や面会時の対話及び電話連絡時・イベントでの交流等の機会を活用し、家族の意見・要望を聞き、得られた情報はその都度職員に伝達し、話し合いながら運営に反映させている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	毎月ケースカンファレンス、ケアカンファレンス、レクカンファレンスを行い、職員間の意見交換、サービスの向上に努めている。その他、定期的に職員との個人面談を行い、不安なことや悩んでいる事などを聞き入れる機会を設けている。	毎月、月始めに行われるケアカンファレンスの中で意見交換を行い、職員の意見・提案を聞いたり、六ヶ月毎に管理者と職員との個人面談で意見・要望を引き出し、代表者・管理者と職員との相互話し合いの下、事業所の業務改善に職員の意見が反映されるよう取り組まれている。	職員の研修について、施設内研修の場を今以上に設け、会議録を作成の上、記録を保管し、全職員の介護技術・知識の均一化、高度化を図ることにより、職員のスキルアップと、広い視野から日々の業務を見つめ、運営に関する活発な意見交換がなされることを期待します。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	定期的に行なう職員との個人面談にて、色々と職員から聴くことで、悩みや不安なことなどに対し出来る限り、解消に努めている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	外部研修は積極的に行い、情報収集や個々のスキルアップを図るようにしている。その研修で得た経験や知識は、会社に持ち帰り他の職員に伝える機会をもち、サービスの向上に努めている。また、介護主任が中心となったOJTを行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	認知症の研修会に参加することにより同業者との交流の場を持ち色々な悩みや工夫点を聞きサービスに取り入れている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	入居前の見学や事前面接を必ず行い、不安なこと要望等に耳を傾けながら、漏れなくお答えし、本人の安心を確保するように努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	施設見学や面接等を行なっている中で、その際に、ご家族の思いなどを聴き入れる機会があり、施設の説明等をしっかりと行い御理解していただき、出来る限り不安を取り除き、要望等に対応できるよう心がけている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	窓口を決めることで、介護職員を中心として、医療従事者などと入居判定会議を行い、柔軟に対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	各種行事においてご利用者様の経験を生かした内容に取り組んでいる。また、季節に応じた生活を営めるよう心がけている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	施設の雰囲気作りを心がけ、ご家族の来訪しやすい環境になるよう努めている。また、行事等への参加依頼をし、一緒に行事に参加し、楽しい時間を過ごされています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	友人、知人が施設を訪問されたり、知人宅を、散歩しながら尋ねたりと、関係が途切れないように支援している。	入居者の馴染みの人々や、場所との支援は、入居者に格差があり、体力的・気力的な点で無関心な方もいるが、事業所としては、利用者お一人おひとりの生活歴・環境を配慮しつつ、極力友人・知人の来訪を促す努力に努め、馴染みの人や場所との関係の継続支援をされている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	レク行事等に参加していただき利用者同士で、物作りなど協力しあい関わり合いをもつていただけるよう努めています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	施設の為、契約終了＝死亡又は転居になるので特にフォロー等はしていません。郵便物を転送する際には会社発行の新聞を同封しております。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いやりや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	利用者様との時間を大切に出来るだけ会話をする事により利用者様の思いや希望を取り入れるように努力をしています。困難な場合は、ご家族様からの意見を聞いたり本人に合わせた意向の検討を行なっています。	入居時の面談で聞いた、今までの環境や生活歴、又入居後の日頃の会話や表情・目の動きから希望・意向の把握に努め、困難な場合は家族の意見を参考にしながら、極力本人本位の意向に沿えるように配慮しながら、思いやりのある介護支援に努力されている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居前の面接のときに生活歴や生活環境等の情報を収集している。入居前に使用されていた家具などを持ってきていただいたり入居前の生活習慣を出来るだけ継続出来るよう努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	毎月のケース担当会議で、ホーム長・管理者・ケアマネ・ケース担当者で利用者様一人ひとりの検討を行い、サービスの向上に努めている。ケアカンファレンスではその検討結果を他の職員に伝えサービスの統一を図っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。</p>	<p>月1回のケースカンファレンスの実施を行い、ご利用者様、ご家族様、関係者の意見を出来る限り採り入れることが出来るよう、ホーム長、管理者、ケアマネ、介護職員にて話し合い介護計画を作成している。</p>	<p>日々の記録と担当職員の話に基づいて、三ヶ月に一回のケースカンファレンスを行い、関係者の意見を可能な限り採り入れ、現状に即した介護計画の作成がなされている。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。</p>	<p>介護日誌やケース記録を基に、ケアプランを他職種と共に策定し、職員全体がそれを共有出来るように努めている。また、ケアチェック表を作成する事で実施評価も行なっている。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。</p>	<p>常日頃から、職員は利用者様の状態に注意している為、出来る限りの自立支援を行い、出来る事を奪わないよう心がけながらもサービスを行なっている。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。</p>	<p>文化交流を図る為、地域のボランティアの方の協力を得て、オカリナクラブやお茶生花クラブ、関クラブ（理容）押し花クラブを月に一度行なう事が出来ている。その他にもイベント時には、様々なボランティアの方の協力を得ることができている。</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診診断</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>	<p>月に2回の呼吸器科の内科往診・毎週火曜日に歯科往診を受けている。また、個々の利用者様に応じた各科の受診援助を行っている。</p>	<p>基本的には指定医による月二回の内科往診と、週一回の歯科医による往診がなされているが、ご家族・入居者の希望に応じて、かかりつけ医の受診支援も行われている。その際は、原則は家族同行の受診となっているが、不可能な場合は職員の代行もしている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	ご利用者様の異常や気づきを介護職から看護職員に報告し、その他申し送りや連絡ノートに記入することで伝達が円滑になるようにしている。重要事項は、看護職員から管理者に報告し適切な受診や看護を受けられる様にしている。7		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院に関して、家族と担当医・主治医・協力医などと連携をとり、ADLの低下の予防に努めている。また、退院時にはカンファレンスを実施し職員の情報共有化を図っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	重度化した場合の指針を示し、家族に配布し説明を行なっている。ターミナルケアについては、担当医、看護師、家族と共に実施をしている。施設で出来ることを話し合い終末期が本人にとって少しでも安楽になるようにしている。	重度化に伴う意思確認書（契約書）を作成し、事業所として出来る最大のケアに取り組まれている。ターミナルケアについては、看護師が担当医・ご家族に相談し、意向を踏まえた上で、職員と関係者が綿密に連携した支援がなされている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	急変時の訓練はしていないが、実践力がつく様に研修などをしていきたい。急変時には、緊急連絡網により連絡を行い落ち着いて対応をするように指導している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	災害時については、定期的な避難訓練に消防署の職員を呼び、行なっている。その際に職員に避難方法・避難場所の把握を行なっている。現段階で非常時には10分で連絡網が回るようにしている。	消防署の指導を受けながら、年二回の避難訓練を実施している。スプリンクラー、火災警報装置を設置して、災害対策マニュアルを作成の上、緊急時対策がなされている。	避難訓練は定期的実施されているが、管理者が変更となり、数名の新人職員を迎えた現在、今一度、災害を想定した実践的な訓練を積み重ね、慌てる事無く確実な避難誘導が出来るよう、加えて近隣の参加・協力体制づくりについても、早急な取り組みが期待される。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	「相手本位の心」を運営理念として掲げ、個人のプライバシー並びに、誇りは深く理解するよう努め、個人情報の取り扱いについては同意書を得ている。	常に運営理念「相手本位の心」を念頭に、目立たずさりげない排泄処理や入浴を担当する職員の配慮、言葉づかい等入居者の人格の尊重・プライバシーの保護、及び個人情報の責任ある取り扱いと管理が徹底されている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	本人の思いや希望を尊重し、日々の生活を安心して暮らせるよう心がけている。入浴に関して言えば、拒否された時は入浴を中止し、別の日に入浴をしていただいている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	施設理念の『相手本位の心』を大切に、各自のペースを大切にしています。出来る限りご利用者様には、ありのままの生活をして頂けるように努力している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	毎月地域の理容師に訪問していただいたり、希望の服を選んでもらったり、化粧品をプレゼントするなどして身だしなみが整うように支援している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	車椅子2名、シルバーカー（要介助）5名のため、食事作りは同施設内厨房に依頼している。食べやす形状にする事はもとより、提供時に言葉掛けを工夫し介助に気をつけながら、おいしい食事と思ってもらえるように配慮している。	食事については、グループ内の配食サービスを利用されている。入居者の好みの反映が十分出来ないため、毎月29日の夕食を職員の手づくり料理の日として、好みの反映に努めたり、好物の持ち込み等で食事を楽しむ工夫がなされている。職員も弁当を持参し、入居者と語りながら、楽しく支援されている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス，水分量が一日を通じて確保できるよう，一人ひとりの状態や力，習慣に応じた支援をしている。	利用者様の食事量は、職員一人ひとりがしっかりと把握して良く観察し、必要時には介助を行っている。水分量については毎日の摂取量分かる表を作成し、ケアカンファレンスにて1日の平均摂取量や少ない日・多い日を発表している。栄養バランスについては栄養士がたてた献立にそって提供されている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	自立支援を考慮し、出来るところはしていただき、必要時には介助を行い、口腔ケアをしている。毎週火曜日には、歯科往診の実施があり衛生管理に努めている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン，習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	排泄については、量、質、性状を確かめ、毎回グラフ化している。その習慣に合わせてケアする事が出来ているので、失禁等の回数の軽減も出来ている。夜間についてはポータブルの使用など個々に合わせている。	入居者の排泄については、お一人おひとりの排泄パターンや習慣・時間帯の把握に努め、排泄の自立支援に努力されている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	1日の水分摂取量の把握し、声かけや介助による水分摂取の促しを行なっている。その他お腹をマッサージし便意の促しを行なったり、おやつ時に水分を多く含んだ飲み易いものを提供し、摂取していただいている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている。	入浴回数表を毎日記録し、回数の把握をしている。入浴前に必ず本人の同意を得るようにしている。時間帯は入浴担当職員の勤務時間にあわせ、午前中か午後2～3時の時間が多い。	週二回の入浴が基本であるが、午前中か午後二時～三時の間、本人の希望や体調に合わせて入浴支援をしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々 の状況に応じて、休息したり、 安心して気持ちよく眠れるよう 支援している。	利用者様のペースで生活して いただけるよう、個々の生活パ ターンを把握する事で、1日の 入眠時間を大切にしている。 安定剤の使用も控えている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の 目的や副作用、用法や用量につ いて理解しており、服薬の支援 と症状の変化の確認に努めて いる。	担当医・主治医・看護師と連携 して薬の服用については、注意 し把握を行うようにしている。 特に利用者様の状態の変化の あった後の薬の変更等について は、連絡ノートに看護職員が記 入し全職員が情報を共有して いる。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過 ごせるように、一人ひとりの生 活歴や力を活かした役割、嗜好 品、楽しみごと、気分転換等の 支援をしている。	お茶生花・オカリナクラブ・関 クラブ（理容）押し花クラブの 各種クラブ活動の実施、またご 本人の得意な分野での活躍出 来る事を見つけ、生活を楽しん でいただいている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそ って、戸外に出かけられるよう 支援に努めている。また、普段 は行けないような場所でも、本 人の希望を把握し、家族や地 域の人々と協力しながら出かけ られるように支援している。	「さくら祭り」「菊花展鑑賞」 などを開催し、「さくら祭りの」 食後にご家族様と一緒に近く の公園にてさくらの花見を行 なうようにしている。日々の生 活では、体調に合わせてお散 歩や買い物に行き、地域の商 店の方とのコミュニケーション を楽しんでいただいている。	入居者の状況や習慣、有する 能力に応じて、家族の同行や 職員の同行などケースバイケ ースで、外出を楽しめる支援 に取り組まれている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つこと の大切さを理解しており、一人 ひとりの希望や力に応じて、お 金を所持したり使えるように 支援している。	買い物に行った際には、本人 がレジにてお支払をして頂く ようにしている。一人ひとりの 希望に応じることが出来るよ う、職員体制を増やしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	電話について制限は設けておらず、利用者様の希望する場所への電話の援助を行っているが、ADL低下により、手紙や電話について7の要望はありません。		
52	19	○居心地の良い共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	施設の雰囲気を抑え、極力家庭的な雰囲気を演出し、利用者様が戸惑わないよう配慮を行っている。採光については、自然の光を取り入れるよう採光窓を設置しソファなどに座ると、日に当れるようになっている。	共用空間は明るくて広い、違和感を感じさせるような飾りを控え、水槽や緑がさりげなく置かれ、掃除も行き届き清潔感あふれ、居心地良く過ごせるよう配慮されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	ダイルールの配席は定期的な見直しを行い、利用者様同士が支えあえる環境づくりに努めている。テレビの好きな利用者様や、お話好きな利用者様、ソファでゆっくりされる利用者様など個々に併せた空間作りを実施している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	利用者様が生活し易いよう、居室環境の整備に努めている。また、ご家族の要望も聞き入れ、生活者が主体的に生活が出来るように配慮をしている。あわせて、重度化していくにつれ居室のレイアウトの改善を、カンファレンスを基に、実施している。	使い慣れた整理ダンスに孫の写真を飾ったり、仏壇・机・テレビ等入居者の馴染の物を持ち込み、又持ち込みが少ない方は本人と相談しながら退居者が残された家具等を活用して家庭の雰囲気づくりを支援するなど、各部屋それぞれに個性的な部屋で、今まで生活されてきた環境に近い居室として楽しく暮らせるよう工夫がなされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	バリアフリーの作りになっており、床にはビニールテープを貼ることで手すりを持ちながらトイレに行けるようになっている。また、歩行練習が出来るようになる為、健康な身体作りの為、リハビリを行なう利用者様もいらっしゃいます。		

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係やとのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の3分の2くらいが ③家族等の3分の1くらいが ④ほとんどできていない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	施設理念「相手本位の心」をスタッフルームや階段室等に掲示しお客様にも認識していただき、職員も常に理念を念頭においたケアが行えるように取り組んでいる。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	ご利用者様と共に散歩に行く際に、近隣の商店へ買い物に行くことや、地域交流として近隣の保育所や地域の作業所等と、町内会等の協力を得て”ニックス祭り”を実施している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	町内会の寄り合いに、管理者クラスの職員が参加し、地域の方との交流を大切にしている。その際にはイベント等のご協力の依頼を行い、事業所が孤立する事無いよう努めている。ニックス祭りには町内会長をはじめ地域の方が屋台に買い物に來られます。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	概ね2ヶ月に1度運営推進会議を行い、事業所の近況や予定を報告し、要望や意見を頂いて、サービスに反映させるように努めている。		
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	生活課の担当者の方などと随時連携を取り、サービスの向上を目指している。広島市開催の研修等は積極的に職員が参加し、情報収集を行い日々の業務に活かしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	<p>新人職員が多い為、具体的な行為については正しく理解していないと思われるが、毎月1回行っているケアカンファレンスにて介護方法が統一化されるようにしている。玄関の施錠はしておりますが、階段上部に転落防止の為、門扉を設置している。</p>		
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。</p>	<p>外部研修や職員研修を行い虐待について学ぶ機会を設けている。事業所内で虐待や、それと思われるようなケースがないよう、職員同士で、日々の観察に注意を払い防止に努めている。</p>		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。</p>	<p>該当の研修に参加し、その研修報告を兼ね全職員にも研修を行っている。必要な場合には、司法書士の支援の依頼が可能である。</p>		
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>入居前の見学や事前訪問を必ず行い、入居が決定した際には、契約書・重要事項説明書をもとに、分かりやすく説明を行っている。不安な点、疑問点があれば漏れなくお答えし、ご理解いただけるよう説明を行っている。</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>ご意見ポストの設置を行っている。家族会、イベント時にはアットホームな雰囲気で開催できるよう工夫し遠慮なく色々なご意見をいただけるよう配慮している。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	毎月ケースカンファレンス、ケアカンファレンス、レクカンファレンスを行い、職員間の意見交換、サービスの向上に努めている。その他、定期的に職員との個人面談を行い、不安なことや悩んでいる事などを聞き入れる機会を設けている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	定期的に行なう職員との個人面談にて、色々と職員から聴くことで、悩みや不安なことなど対応出来る限り、解消に努めている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	外部研修は積極的に行い、情報収集や個々のスキルアップを図るようにしている。その研修で得た経験や知識は、会社に持ち帰り他の職員に伝える機会をもち、サービスの向上に努めている。また、介護主任が中心となったOJTを行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	認知症の研修会に参加することにより同業者との交流の場を持ち色々な悩みや工夫点を聞きサービスに取り入れている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	入居前の見学や事前面接を必ず行い、不安なこと要望等に耳を傾けながら、漏れなくお答えし、本人の安心を確保するように努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	施設見学や面接等を行なっている中で、その際に、ご家族の思いなどを聴き入れる機会があり、施設の説明等をしっかりと行い御理解していただき、出来る限り不安を取り除き、要望等に対応できるよう心がけている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	窓口を決めることで、介護職員を中心として、医療従事者などと入居判定会議を行い、柔軟に対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	各種行事においてご利用者様の経験を生かした内容に取り組んでいる。また、季節におうじた生活を営めるよう心がけている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	施設の雰囲気作りを心がけ、ご家族の来訪しやすい環境になるよう努めている。また、行事等への参加依頼をし、一緒に行事に参加し、楽しい時間を過ごされています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	友人、知人が施設を訪問されたり、知人宅を、散歩しながら尋ねたりと、関係が途切れないように支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	レク行事等に参加していただき利用者同士で、物作りなど協力しあい関わり合いをもつていただけるよう努めています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	施設の為、契約終了＝死亡又は転居になるので特にフォロー等はしていません。郵便物を転送するには会社発行の新聞を同封しております。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いやりや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	利用者様との時間を大切に出来るだけ会話をする事により利用者様の思いや希望を取り入れるように努力をしています。困難な場合は、ご家族様からの意見を聞いたり本人に合わせた意向の検討を行なっています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居前の面接のときに生活歴や生活環境等の情報を収集している。入居前に使用されていた家具などを持ってきていただいたり入居前の生活習慣を出来るだけ継続出来るよう努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	毎月のケース担当会議で、ホーム長・管理者・ケアマネ・ケース担当で利用者様一人ひとりの検討を行い、サービスの向上に努めている。ケアカンファレンスではその検討結果を他の職員に伝えサービスの統一を図っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。</p>	<p>月1回のケースカンファレンスの実施を行い、ご利用者様、ご家族様、関係者の意見を出来る限り取り入れることが出来るよう、ホーム長、管理者、ケアマネ、介護職員にて話し合い介護計画を作成している。</p>		
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。</p>	<p>介護日誌やケース記録を基に、ケアプランを他職種と共に策定し、職員全体がそれを共有出来るように努めている。また、ケアチェック表を作成する事で実施評価も行なっている。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。</p>	<p>常日頃から、職員は利用者様の状態に注意している為、出来る限りの自立支援を行い、出来る事を奪わないよう心がけながらもサービスを行なっている。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。</p>	<p>文化交流を図る為、地域のボランティアの方の協力を得て、オカリナクラブやお茶生花クラブ、関クラブ（理容）押し花クラブを月に一度行なう事が出来ている。その他にもイベント時には、様々なボランティアの方の協力を得ることができている。</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診診断</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>	<p>一ヶ月に2回の呼吸器科の内科往診・毎週火曜日に歯科往診を受けている。また、個々の利用者様に応じた各科の受診援助を行っている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	ご利用者様の異常や気づきを介護職から看護職員に報告し、その他申し送りや連絡ノートに記入することで伝達が円滑になるようにしている。重要事項は、看護職員から管理者に報告し適切な受診や看護を受けられる様にしている。7		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院に関して、家族と担当医・主治医・協力医などと連携をとり、ADLの低下の予防に努めている。また、退院時にはカンファレンスを実施し職員の情報共有化を図っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	重度化した場合の指針を示し、家族に配布し説明を行なっている。ターミナルケアについては、担当医、看護師、家族と共に実施をしている。施設で出来ることを話し合い終末期が本人にとって少しでも安楽になるようにしている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	急変時の訓練はしていないが、実践力がつく様に研修などをしていきたい。急変時には、緊急連絡網により連絡を行い落ち着いて対応をするように指導している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	災害時については、定期的な避難訓練に消防署の職員を呼び、行なっている。その際に職員に避難方法・避難場所の把握を行なっている。現段階で非常時には10分で連絡網が回るようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	「相手本位の心」を運営理念として掲げ、個人のプライバシー並びに、誇りは深く理解するよう努め、個人情報の取り扱いについては同意書を得ている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	本人の思いや希望を尊重し、日々の生活を安心して暮らせるよう心がけている。入浴に関して言えば、拒否された時は入浴を中止し、別の日に入浴をしていただいている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	施設理念の『相手本位の心』を大切に、各自のペースを大切にしています。出来る限りご利用者様には、ありのままの生活をして頂けるように努力している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	毎月地域の理容師に訪問していただいたり、希望の服を選んでもらったりして身だしなみが整うように支援している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	7名中車椅子1名シルバーカー2名ふらつきのある方1名男性1名である為、食事準備に参加できる方が限られるため、同施設内厨房に依頼をしている。後片付けは、当番日を決めて職員と一緒にしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス，水分量が一日を通じて確保できるよう，一人ひとりの状態や力，習慣に応じた支援をしている。	利用者様の食事量は、職員一人ひとりがしっかりと把握して良く観察し、必要時には介助を行っている。水分量については毎日の摂取量分かる表を作成し、ケアカンファレンスにて1日の平均摂取量や少ない日・多い日を発表している。栄養バランスについては栄養士がたてた献立にそって提供されている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	自立支援を考慮し、出来るところはいただき、必要時には介助を行い、口腔ケアをしている。毎週火曜日には、歯科往診の実施があり衛生管理に努めている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン，習慣を活かして，トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	排泄については、量、質、性状を確かめ、毎回グラフ化している。その習慣に合わせてケアする事が出来ているので、失禁等の回数の軽減も出来ている。夜間についてはポータブルの使用など個々に合わせている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し，飲食物の工夫や運動への働きかけ等，個々に応じた予防に取り組んでいる。	1日の水分摂取量の把握し、声かけや介助による水分摂取の促しを行なっている。その他お腹をマッサージし便意の促しを行なったり、おやつ時に水分を多く含んだ飲み易いものを提供し、摂取していただいている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように，職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに，個々に応じた入浴の支援をしている。	入浴回数表を毎日記録し、回数の把握をしている。入浴前に必ず本人の同意をえるようにしている。時間帯は入浴担当職員の勤務時間にあわせ、午前中か午後2～3時の時間が多い。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々 の状況に応じて、休息したり、安 心して気持ちよく眠れるよう支 援している。	利用者様のペースで生活していただ けるよう、個々の生活パターンを 把握する事で、1日の入眠時間を 大切にしている。安定剤の使用も 控えている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の 目的や副作用、用法や用量につ いて理解しており、服薬の支援 と症状の変化の確認に努めてい る。	担当医・主治医・看護師と連携し て薬の服用については、注意し 把握を行うようにしている。特 に利用者様の状態の変化のあ った後の薬の変更等については、 連絡ノートに「看護職員」が記 入し「全職員」が情報を共有し ている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過 ごせるように、一人ひとりの生 活歴や力を活かした役割、嗜好 品、楽しみごと、気分転換等の 支援をしている。	お茶生花・オカリナクラブ・関 クラブ（理容）押し花クラブの 各種クラブ活動の実施、またご 本人の得意な分野での活躍出来 る事を見つけ、生活を楽しんで いただいている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそ って、戸外に出かけられるよう 支援に努めている。また、普段 は行けないような場所でも、本 人の希望を把握し、家族や地 域の人々と協力しながら出かけ られるように支援している。	「さくら祭り」「菊花展鑑賞」 などを開催し、「さくら祭りの」 食後にご家族様と一緒に近くの 公園にてさくらの花見を行なう ようにしている。日々の生活で は、体調に合わせてお散歩や買 い物に行き、地域の商店の方と のコミュニケーションを楽しん でいただいている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つこと の大切さを理解しており、一人 ひとりの希望や力に応じて、お 金を所持したり使えるように支 援している。	買い物に行った際には、本人が レジにてお支払をして頂くよう にしている。一人ひとりの希望 に応じることが出来るよう、 職員体制を増やしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	電話について制限は設けておらず、利用者様の希望する場所への電話の援助を行っている。希望者は自室に固定電話があり、携帯電話で通話を自由にされています。		
52	19	○居心地の良い共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	施設の雰囲気を抑え、極力家庭的な雰囲気を演出し、利用者様が戸惑わないよう配慮を行っている。採光については、自然の光を取り入れるよう採光窓を設置しソファーなどに座ると、日に当れるようになっている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	ダイルームの配席は定期的な見直しを行い、利用者様同士が支えあえる環境づくりに努めている。テレビの好きな利用者様や、お話好きな利用者様、ソファーでゆっくりされる利用者様など個々に併せた空間作りを実施している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	利用者様が生活し易いよう、居室環境の整備に努めている。また、ご家族の要望も聞き入れ、生活者が主体的に生活が出来るように配慮をしている。あわせて、重度化していくにつれ居室のレイアウトの改善を、カンファレンスを基に、実施している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	バリアフリーの作りになっており、床にはビニールテープを貼ることで手すりを持ちながらトイレに行けるようになっている。また、歩行練習が出来るようになる為、健康な身体作りの為、リハビリを行なう利用者様もいらっしゃいます。		

V アウトカム項目		
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○ ①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○ ①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○ ①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係やとのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の3分の2くらいが ③家族等の3分の1くらいが ④ほとんどできていない

(様式2)

2 目標達成計画

事業所名 グループホーム かぐや姫

作成日 平成23年 12月 1日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点, 課題	目標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	35	災害(火災)時に具体的に何をしたら良いか個々が把握できていない。	確実な避難誘導が出来るようになる。役割を知的確な行動が取れる様になる。	毎月初日に行なうカンファレンスにて避難訓練手順を元に3人一組でシュミレーションをする。	6ヶ月
2	11	研修の機会が少なく会議録が作成されていない。	研修後は必ず会議録を作る。	毎月1回の施設内研修に参加し、参加者が講師となって他の職員に研修内容を伝える。	6ヶ月
3					
4					
5					
6					
7					

注1) 項目番号欄には, 自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は, 行を追加すること。